

福岡県

箸休め ゆず香

ユズのおつまみ・コンフィ、箸休めゆず香



“箸休め ゆず香”3種、
ビター・ミディアム・マイルド



3種入り手提げ1,620円、
3種入り化粧箱1,820円



ブルーチーズなどに
付けオードブルに



JR小倉駅おみやげ街道ビエラ



モンベルの商品ページ
に掲載された製造工程



カフェ・ロゼ北九州空港店のゆず香
入リスムージー

取組概要

- ユズ収穫による地域興しと里山美化を期待し、地元で食べ継がれてきたマーマレード風なユズのおつまみを「箸休め ゆず香」と名付けH24年に商品化。
- 日本で唯一の加工品のため、食べ方やいわれを示した和英併記の葉も付け、海外からの訪問者にも対応。
- 平尾台自然の郷、合馬農産物直売所などのほか、JR新幹線小倉駅おみやげ街道ビエラや北九州空港等の7店舗で販売。R2年は約1300個を販売。

活動成果

- 高級なお土産や贈答品として、地元有名店や近郊の駅・空港での販売が定着し、地域の観光振興に貢献。
- 北九州空港の喫茶店に業務用として納入が実現。季節限定でモーニングセットやスムージーで提供され好評を得ている。更にアウトドアメーカーのフレンドショップへの登録のほか、北九州市のふるさと返礼品の指定を受け、町おこしに貢献。

箸休め ゆず香

福岡県北九州市小倉南区志井鷹羽台25-6

<https://ja-jp.facebook.com/tora.saburou>

Tel : 093-961-5273 Fax : 同左

協同組合福岡・大川家具工業界 地域材開発委員会

「うえる」「つくる」「つなげる」



早生樹センダンの普及活動



早生循環型ビジネス構築の実施体制



「SENDAN」リノベーション事例



「SENDAN」ブランドロゴ



「SENDAN」リビングプラン

取組概要

- 家具産業として国産材活用を考えたときに家具材として適性を兼ね備えた早生広葉樹のセンダンに着目。
- H29年にセンダンを使った家具の商品開発を開始。また、消費のみでなく自分たちで育てるという意識から、地域の子ども達も参加する植樹活動も実施。
- R2年度にはセンダン材を使用した商品のブランド名を「SENDAN」に決定するとともにホームページを開設しPRを強化。

活動成果

- 植樹活動の参加者は住宅供給者や消費者とその子供達であり、R元年度250人(6ヶ所、植樹950本)、R2年は285人(5ヶ所、植樹900本)、R3年度は500人(5ヶ所以上)を予定。また、実施回数も延べ18回となっている。
- センダン材は家具のみならず、ショールームやリノベーション物件の内装材としても活用されるようになってきている。

ごいのき 伍位軒集落協定

集落みんなで守る「みかんの里」



高品質ミカンの栽培(シートマルチ栽培)



取組概要

- パワーショベルの共同利用による園地整備、中山間直接支払交付金を活用した園内道等を自主施工。さらに、道路の生コン舗装を実施。
- 本集落で発見された優良品種「北原早生」の生産の拡大。「シートマルチ栽培」による高品質ミカンの生産を推進。
- 鳥獣被害防止のため、中山間地域等直接支払交付金を活用し、H30年に箱わな、R2年には広範囲にワイヤメッシュを設置。農業者4名が狩猟免許を取得し、イノシシの捕獲に取り組む。

活動成果

- SSや軽トラックの園内乗入れが可能となり、栽培・管理作業の省力化が進み、経営規模が拡大。「北原早生」、「シートマルチ栽培」(被覆率80%)の導入による高品質ミカンの生産により、高値で取引され、北原早生の販売額もH28年の2.1億円からR2年には2.8億円に増加。
- ミカン農家の経営基盤が強化され、農家所得が向上。H22年以降、集落に4名がUターン就農。子供の数も増え、集落全体が活性化。

ルフラン（みやま市環境衛生課）

循環型社会を体現する地域憩いの施設



日替わりカフェの様子



食品加工室



開発販売されたドレッシング

取組概要

- 廃校になった小学校の教室を改装し、食品加工室やカフェなどをつくり、起業を目標としたチャレンジ施設「ルフラン」をオープン。また、ルフラン食品加工組合を結成し、地元農産物の加工品などが製造・販売されている。
- ルフラン食品加工組合内のグループが毎日日替わりでカフェを営業し、老若男女が集う賑わいの場になっている。
- 新型コロナウイルス感染症に対応して3教室をテレワークオフィスに改装。リモートワークやweb会議等に利用されている。

活動成果

- ルフラン食品加工組合はR元年度の19組68名からR3年度には37組117名に増加。
食品加工室の利用日数もR元年度の32回からR3年度は300回超の見込み。
- 日替わりカフェはコロナの影響もあるが、R3年度は営業日は約260日、来客数は2,500名を見込んでいる。
- 一年を通してマルシェや料理教室等のイベントが開催され、市外からも多くの人が来て、賑わいを見せている。

有限会社小林きのこ産業

守ろう×大莞(おい)の宝×子供たちにつなげ



女性の活躍のための経営改革



6次産業化に向けて加工品を販売



大莞(おい)祭り

取組概要

- S48年よりえのき栽培を開始。H元年に社会保険の整備など従業員の就業条件の改善等のため法人化。社会保険のほか退職金制度、産前産後休業、育児休業等を整備。
- さらに、従業員が家庭と仕事を両立できるよう就業時間の調整や従業員のライフステージと希望に応じたパートから正社員への登用を推進。
- えのきを使った加工品開発に取組み、茶、クッキー、ごぶ漬、キムチ、ジュレ、ベンリディップなどを加工・販売。

活動成果

- 大木町におけるきのこ栽培の先駆けであり、種菌を培養する種菌センターの設立などきのこの産地形成に大きく貢献。
- 顧客、社員、経営者の「三者満足」が会社の理念。売上高1億円超の会社に成長。加工品づくりも経営の柱とすべく、食の商談会等への参加、消費者を招いた試食会開催など積極的に推進。
- 地元の祭り「大莞(おい)祭り」へのきのこご飯の提供、地域の環境保全活動への積極的な参加などで地域に貢献。

みやこ町農林業振興連絡協議会学校給食小委員会

メイドインみやこプロジェクト



地場産物を活用した学校給食



取組概要

- 学校給食に地場産物をさらに使用するため地元JAと学校給食センターで毎月1回の定例会議を実施。
- 児童生徒に地場産物や生産者に興味をもってもらうため「地場産物だより」を平成26年度から5回発行。令和2年度からは毎月発行し各家庭にも配布。また、Facebookにも掲載。
- 平成29年度から小学校の教育ファームで栽培したさつまいもを、令和3年度は中学校のキャベツを学校給食に使用。

活動成果

- 学校給食における青果物の地場産物使用割合は年々増加し、保護者からも高い評価を受けている。
- 「地場産物だより」の発行により生産者と給食センターとの関係が深まるとともに子ども達は生産者の顔と名前を覚えるなど地域への関心が深まっている。
- 学校給食での地産地消の推進や教育ファーム等の活用により地域農業への関心が深まり町の活性化が期待される。

(株)筑前町ファーマーズマーケットみなみの里

地域ぐるみで6次産業化に挑戦！



「6次化商品が並ぶセレクトショップ内・外観」



筑前クロダマルを使った商品
(約30品)



豆腐



かまど炊きごはん・
米粉パン

取組概要

- 黒大豆加工品の品揃えを増やすため直売所に「石臼挽きのきな粉製造器」を導入しきな粉の製造販売を開始。一次加工品を同所で行うことのできな粉を使用した商品開発が進んでいる。
- 直営の加工施設を整備し米粉パン及び豆腐の製造販売を実施。また、レストランではかまど炊きごはんを提供。
- 住民を対象に6次化起業講座を開講。上記取組により加工品の品揃えが豊富になりセレクトショップ「手みやげやさん」をR3年1月にオープンした。

活動成果

- 現在6事業者がロールケーキ等の製造・販売を行っている。また、農家や女性グループ、高校が黒大豆を原料とした加工品製造に取組み、煎り豆や納豆など約30品目を同所で販売している。
- 6次化起業講座は加工技術から販売までトータルで行っており、5名が自宅に加工場を整備、3名が町の施設を加工品の製造に取り組んでいる。
- 同所の売上はH28年度の6.1億円からR2年度は8.2億円に増加。農産加工品の売上も5.1千万円から6.8千万円に増加している。